資料7

令和４年度岩手県地域福祉推進協議会　グループディスカッション　要旨

日時：令和５年１月 24 日（火）15：00～16：30

（２グループに分かれてディスカッション。）

１グループ　千葉委員、坂川委員、金澤委員、加藤委員、高橋委員

＜ディスカッションの概要＞

○　重層的支援体制整備事業を導入する上での課題について

・　庁内における認識不足。福祉の課題を共有しようとしても長寿社会課の問題だと言われ、新たに体制を構築する必要性が少ない。

・　新規施策や事業を回す中心となる職員がいない。

・　問題事案は、様々な事情が複合的に存在することが多いが、そうした事情を整理するのが大変である。

○　困難ケースの発見はどういうことがきっかけとなるか

・　民生委員からの情報や、生活保護申請などの情報が中心。

・　滞納など税情報がきっかけで、福祉部局で取りこぼしがちだった人が明るみになる。

○　問題発見の糸口のほか、重層的支援体制に期待されることがあるか。

・　福祉部局以外とは、ケース毎に相談はあるが、定期的に会議があれば情報共有しやすくなる。

・　民生委員や社協等福祉分野以外の団体との関係づくりがし易くなるのではないか。

・　福祉分野以外の団体とは、個別に支援を求められるようになればいい。

○　包括的支援体制を進めるためにどのような人材が求められるか。

・　地域住民との関係の中で問題を発見する役割。

　これまでは民生委員や保健推進員が行っていたが、なり手が少なくなっており、人材育成が課題である

・　福祉の専門家というよりも、住民と行政のパイプ役になる人材が求められている。

２グループ　米田委員、及川委員、吉田委員、大信田委員、大吹委員、山屋委員

＜ディスカッションの概要＞

○　重層的支援体制整備事業について

・　重層的支援体制整備事業における個別ケース（児童、生活困窮など）の数は非常に多く、かつ抱える問題が重すぎて、解決が難しい。

・　市町村において、支援のつながりとして福祉以外の分野との連携が重要。

　横連携を調整する部署が市町村に必要。

・　一方で、地域の孤立をどうするか、居場所づくりが重要で、子ども食堂の活用や、引きこもりへのアプローチ、高齢者の作業所など多様な交流の場として、地域づくりを発展させる可能性も秘めている事業である。

・　市町村がプラットホームとなり、交流の場が各地にできるとよい。

・　盛岡市では、民生委員や社協などが連携して、地域ごとに地域まるごと相談会が開催され、交流の場になっている。

・　交流の機会は、行政職員が担うことは不可能であり、また、現状ではボランティアは不足している。

　県立大学の学生や元気な高齢者の活躍の場にできるのではないか。

・　高齢者と若者が互いに支え合うことはとても重要。

　さらに企業による社会貢献も巻き込めるといい。

・　地域の声を投函するポストを設置し、実現に取り組む地域もある。